

赤米ニュース

第264号

(2019年3月31日)



東京赤米研究会

〒186-0005 東京都国立市西 3-7-29 アゼリア国立2-101 長沢方(Tel042-577-6855)

おしらせ	-----	2110
稲の収穫祭と神社信仰 (V)	-----	長沢利明 21
表紙解説：ニッポン寿司列島③—雛祭りのちらし寿司 (千葉県)	-----	2116

おしらせ

●今年度用の種籾の配布

2019年度の赤米作りが、いよいよスタートしようとしております。今年もまた頑張っ、て、おいに収穫量をあげましょう。今年度の赤米栽培に向けて、当会では例年通り、栽培希望者に、種籾の無料配布をおこないますので、必要な方はぜひお早めにご連絡下さい。昨年は希望者が非常に多く、事務局では種籾の確保に苦勞をしましたが、何とか全員に希望の品種を提供することができました。とはいえ、種まき直前の4～5月頃にはもう、種籾の在庫はほとんど残っておりません。ぜひ1～2月中に、遅くとも3月中までに連絡をしていただければ、種籾をお届けすることができますと思いますので、よろしくお願ひ申し上げておきます。

本年、当会から配布することのできる赤米品種は、以下の通りですので、配布希望者はぜひ品種名を指定してご請求下さい。それぞれの品種の特徴を、以下に若干解説しておくことに致しますが、ここに紹介する各赤米品種は、基本的にいっさいの品種改良のなされていない純然たる伝統的な在来種で、園芸店や種苗店では決して入手できない神饌赤米なども含まれております。

①総社種赤米

岡山県総社市の国司神社に伝えられてきた、神饌赤米在来種です。ジャポニカ型の赤米稲の代表種で、いわゆる四大赤米稲のうちの一つでもあり、もっともよく知られているものです。赤褐色の籾と鮮紅色の長い芒がきれいです。大変丈夫で育てやすい赤米稲ですので、初心者向きです。



②種子島種赤米

鹿児島県種子島の宝満神社に伝えられてきた、神饌赤米在来種です。これも四大赤米稲のうちの一つです。ジャヴァニカ種ではないかともいわれています。芒は白ですが、玄米は赤い色をしています。米は大変美味で、飯の香りもよく、日本の在来赤米の中でもっとも食味にすぐれています。実際に食べてみるには、最適の品種です。



③武蔵国分寺種赤米

東京都国分寺市内で今から20年ほど前に発見された、東京生まれの陸稲赤米稲です。東日本を代表する在来ジャポニカ種赤米稲で、四大赤米稲のうちの一つです。陸稲型の赤米稲として、重要な存在です。5月上旬に直まきすれば、7月には早くも出穂するスーパー早稲種で、茎が人の背丈ほどにも伸びる野性的な赤米稲でもあります。乾燥や低温にも

よく耐え、大変丈夫で作付しやすく、初心者におすすめの赤米稲です。



④ブータンA種赤米

ヒマラヤ山脈の小国、ブータンで栽培されてきた在来赤米の一種です。結実数が多く、粳は白くてまったく芒のない坊主稲ですが、玄米は赤いです。早稲ですので、非常に早く出穂・結実します。低温と乾燥にもとても強く、栽培しやすい品種です。



⑤ブータンB種赤米

これもまた、ブータンの在来赤米の一種です。ブータンにはたくさんの赤米品種があるのですが、これはその代表的な一種です。粳は白っぽく、時に赤味を帯びることがあります。長い芒はあざやかな赤紫色になります。やはり早稲種で、早く稔ります。



⑥ペニロマン赤米

九州農業試験場で1987年に生み出された新品種の赤米稲で、「西海209号」ともいいます。赤米にしては草丈が低く、風にも強い品種です。米は粘りがあって、大変おいしいです。古代米ではありませんが、すぐれた現代赤米です。長崎県の対馬種赤米の血を引いています。家庭菜園などで、趣味でこの品種を栽培する方々が最近増えております。



⑦ネリカ米

アフリカの食糧不足問題の解決のために開発された新品種で、NERICAと呼ばれますが、New Rice for Africaの略です。アフリカのグラベリマ種と、日本のジャポニカ種とを掛け合わせて作られた稲です。粳が大きく多収で、独特の米の形をしています。赤米ではありませんが、希望者には配布致します。



⑧長野トウコン

長野県下で採種された混入赤米稲で、インディカ種に属します。中世に日本に渡来してきた大唐稲の血を引く赤米で、長野県の現地ではすでに絶滅してしまいました。当会会員であった唐木田清雄氏の手で、保存されてきた貴重な赤米品種です。



●熊野神社の社報で紹介されました

東京都国分寺市の熊野神社では昨年、盛大な新嘗祭が挙行され、市内で収穫された武蔵国分寺種赤米が神前に奉納されましたが、そのニュースが同神社の社報、『氏神さま』の2019年新年号（2018年12月1日発行）で取り上げられました。宮司様より許可をいただきましたので、次頁にそれを転載させていただきます。

稲の収穫祭と神社信仰(V)

長沢 利明

2 江戸時代の恋ヶ窪・つづき

そうだとするならば、道興准后はその悲恋物語伝説を土地の人々から聞き、それを踏まえたいうで、この歌を詠んだということになるのですが、率直に申し上げて、相当に苦しい解釈ではないでしょうか。悲恋伝説が生まれたのは、もっと新しい時代のことで、道興准后がここをおとずれた時には、それはおそらくまだ存在していなかったろうと、私は考えております。そして、この伝説を単なる作り話だと、無碍に否定してしまう態度にも、私はあまり賛成できません。伝説はもちろん史実ではないのですけれども、そういう話を大切に語り伝え、悲劇のヒロインをあわれみ、深く同情して、東福寺の境内に今ある「傾城塚」をいとなみ(写真8)、慰霊と供養とを続けてきた人々の温かい心と気持ちは、尊重されなければならないのです。私たちはそういう態度で、伝説というものに向き合っていくべきだと思います。

ここ恋ヶ窪という土地の歴史地理的な特性をとらえてみようとする時、これらの伝説や史実が物語っていることは、鎌倉街道がこの地を南北に縦貫して、そこが鎌倉と北関東とを結ぶ中世の交通路の要衝であったということでしょう。恋ヶ窪とはそういう所だったわけで、多くの人々がそこを通り過ぎ、いろいろなものがそこに持ち込まれていく機会に恵まれた土地であったのです。いかにそこが武蔵野のひなびた農村集落であったとはいえ、割合に多くの人々の往来する地で、そこに宿場のようなものもできて、遊女までいたほどの繁華の地であったと伝えられてきた

平成31年



氏神さま

平成30年12月1日発行
熊野神社
〒66-2013 兵庫県国分寺市西池ノ年 1-27-17
TEL.042-328-9363・042-393-9069(1)21

新嘗祭に 武蔵国分寺種赤米を奉獻

十一月二十三日午前十一時より、当熊野町三三三殿に於いて恒例の新嘗祭を斎行致しました。今年も市民団体「国分寺カシオベイト」の坂本清史氏を始め、有志の皆様より赤米の奉納を賜り、丁度新嘗祭に献上致しました。

さてこの赤米ですが、「武蔵国分寺種赤米」という地元産の古伝米です。

赤米は正々神饌や祭典として用いられ、かつてこの地域でも栽培され用いられたであろうと考えられます。このお米が時を置き神社に奉納されたことは大変喜ばしく、貴重なことと思っております。

その経緯を少し細解さよう。平成九年に本郷の稲作連でその稲が発見され、これを専門組織「東が赤米研究会」が分析を行った結果、在来品種であるシマホニイロ赤米種と判別しました。これは全国でも主日本の一か所ですが発見されておらず、未だ日本では初めての事でした。大変貴重な赤米種を保存するべく、国分寺町教育委員会（大橋大氏）が除根を所有する農家から種切を譲り受け、筑波大学諸王・長沢利貞氏らと共に試験栽培を始め



ました。わずか七年、七百の種の種切からのスタートでしたが、熱心な栽培努力により成果をあげました。市内農家の栽培は一時途絶えたものの、その後も継続的に保存と栽培がなされ、平成十九年には「武蔵国分寺種赤米」と命名、平成十九年と二十年には熊野神社へこの赤米が献上されました。そして平成二十七年、東京府で農祭による栽培が再開され、徐々に復元の途地が高まっております。

この赤米に希望。たのが坂本清史氏です。

「口頭、お寺の方々の「もつと色々深を掘り上げたい」という声も多く聞いていました。何かいいかと通り着いたのが赤米でした。地元赤米栽培が、有志高橋と六に市民団体「国分寺カシオベイト」を立ち上げ、赤米種の栽培や新嘗祭に協力していきます。カシオベイトは「赤米」の意で、国分寺で栽培行われていた稲作の風情を復元させたいと強く思っています。

新嘗祭は今年の米りに感謝をするお祭りです。私たちの食に直結する言葉をお送りします。お米は最も大切な神饌で、地元産の稲が地元で収穫され氏神様に感謝の心を以て奉納される。これこそ新嘗祭の究極の姿であり、御祭神さまをお慶びになさるべきことです。

赤米も神饌のお祭りにあり、今年以上の事件と赤米づくりの歴史を発展を心より願っております。



写真7 道興准後の歌碑（熊野神社境内）



写真8 傾城墓（東福寺境内）

ことは、かなりの誇張があつたにせよ、無視することはできません。夙妻太夫伝説が生まれたのは、まさにそうした歴史的条件によるものなのでして、だからこそ畠山重忠も鎌倉への旅の途次、ここに立ち寄ることがあつたのです。室町時代に道興准后がここを通つたのも、鎌倉街道があつたからです。伝説や文学は、そのような所から生み出されるということなのです。

3 熊野神社の歴史

少々回り道をしてしまいましたが、ここからはいよいよ、熊野神社の歴史について見てみることに致しましょう。恋ヶ窪の鎮守社で旧村社、熊野神社は、ここ国分寺市西恋ヶ窪1丁目27番17号に鎮座しております。祭神は伊弉諾大神（いざなぎのおおかみ）・伊弉冊大神（いざなみのおおかみ）・家津御子大神（けつみこのおおかみ）の三神が祀られています。これら三神のうち伊弉諾大神・伊弉冊大神は国土創成にかかわる夫婦神、家津御子大神とは、須鐵蓋男命（すさのおのみこと）のことです。

熊野神社の総本社は、いうまでもなく和歌山県にある熊野三所権現です。熊野の総本社は、熊野本宮大社（本宮町）・熊野速玉大社（新宮市）・熊野那智大社（那智勝浦町）の三社で構成されているのですが、その分霊は全国各地に勧請されており、熊野神社と称する神社は何千社もあるのです。恋ヶ窪の熊野神社もそのうちの一社ということになりますが、創建年などはまったくわかっておりません。

神社の由緒を、1879年（明治12年）の『北多摩郡神社明細帳』（東京都公文書館蔵）に記載された解説から、引用してみることに致しましょう。

神社取調書

神奈川県管下武蔵国北多摩郡恋ヶ窪村字
熊野郷東一九五

一祭神 伊弉諾尊・伊弉冉尊・八百万神、
村社熊野神社

一由緒

勧請起源不詳ト雖トモ、元弘建武ノ頃新
田義貞鎌倉勢ト戦争ノトキ兵火ニ焼失ス
ト。応永年間社殿再建シ、文明十八年午
五月聖護院道興准后御東行ノ折、朽ちは
てぬ名のみ残れる恋ヶ窪今はたとふもち

きりならずや、御歌御奉額有。天正十八年社殿御奉額トモ兵火ニ焼スト里人申伝、慶長二丁酉年九月九日、今ノ社殿建築シ再勸請ス。明治七年度興准后ノ御歌、有栖川一品幟仁親王様御真筆御印章ヲ給リ、境内ニ碑ヲ建ル。延宝六年午六月御代官野村彦太郎様外御壺名御支配ノ節、社地壺反三畝壺歩ヲ給ル。

一社殿三尺・五尺、雨覆式間・弐間、拝殿式間・三間三尺。

一境内地九畝廿歩、地種官有地第一種。境外改正反別八畝廿八歩、明治六年中上知方、今官有地ニ御座候。

一氏子五十八戸

一管轄庁マテ距離十里余。

右取調候処相異無御座候也。

明治十二年十二月

右社祠掌 里見義安 (印)
氏子惣代 尾崎栄次郎 (印)
同 尾崎平九郎 (印)
同 坂本三左衛門 (印)
戸長 鈴木作左衛門 (印)

神奈川県令野村靖 殿〔国分寺市史編さん委員会 (編) ,1983:p. 136〕。

これは、1879年(明治12年)に神奈川県令に提出された熊野神社の取調調書です。この時代の多摩地域は東京府(今の東京都)内ではなく、神奈川県内に属していたため、所管の神奈川県庁への神社明細の報告・提出が義務付けられておりました。神社の社掌(神主)・氏子総代・戸長(今の区長にあたる)らが連名で、熊野神社の所在地・祭神・由緒・社殿および境内地の規模・氏子数などを詳細にまとめ、神奈川県令(今の県知事)へ届け出ているわけです。

届け出の内容について見てみましょう。まず神社の所在地ですが、武蔵国北多摩郡恋ヶ

窪村字熊野郷東195番地となっており、神社の鎮座する地の小字を、恋ヶ窪村内の「熊野郷東」と称していたことがわかります。主祭神は熊野系の神社ですので、先の伊弉諾尊(いざなぎのみこと)・伊弉冉尊(いざなみのみこと)の夫婦神を中心に、八百万神(やおよろずのかみ)、すなわちその他もろもろの神々が位置づけられております。

神社の由緒を見ると、創建年などはわからないものの、1333年(元弘3年)の鎌倉幕府滅亡にともなう内戦で、熊野神社の社殿は兵火にかかり、焼け落ちたと述べられております。腐敗した鎌倉幕府の北条政権を打倒すべく、北関東の御家人、新田義貞が上野国で兵をあげたのは、この年の5月8日のことで、その軍勢は関東地方を一気に南下し、武蔵国の小手指原や分倍河原で鎌倉勢とぶつかり合い、壮絶な戦いを経て、それを打ち破りました。JR南部線・京王線の分倍河原駅前には、鎌倉の方角を向いてにらみ立つ、馬上姿の義貞の銅像が立っているのを、皆さんもご覧になったことがあるでしょう。

この分倍河原の戦いのとぼっちりを受けて、熊野神社の社殿にも火が掛けられたというのです。新田勢は、当然のことながら鎌倉街道沿いに南へ攻めてくるわけですから、街道筋の要衝にあたる国分寺村や恋ヶ窪村も、戦場に巻き込まれていったとされ、熊野神社のみならず、武蔵国分寺の大伽藍もこの時に巻き添えを食って焼失したと伝えられています。果してそれが史実であったか否かは、確かめようもありませんが、その後の応永年間(1394~1411年)に、熊野神社の社殿は再建されたといえます。さらにその後の1486年(文明18年)には、先に触れた道興准后がここを通りかかり、「朽ち果てぬ〜」の歌を詠んで、それを記した献額が神前に奉納されたと

いわれているのですが、その後の1590年(天正18年)の戦乱で、社殿もろともそれは焼けてしまったとあります。それは北条氏が滅亡した、同年の八王子城合戦にともなう兵火であつたらしいのです。

その後、新しい社殿が1597年(慶長2年)にまた再建されていますが、間口3尺・奥行5尺の本殿に2間四方の覆殿を掛け、その前面に間口2間・奥行3間3尺の拝殿が設けられたと書かれています。しかし、ここには記されていませんが、その後も社殿は何度も建て直されており、1877年(明治10年)には台風で倒壊、1923年(大正12年)には関東大震災でまた倒壊、1945年(昭和20年)には米軍の空襲で大破をしており、そのつど氏子たちの努力で社殿の再建がなされてきたのです。表1に見るように、わかっているだけで歴史上、熊野神社は2度の火災焼失、3度の天災・戦災による倒壊を経験しており、そのつど社殿が再建されてきたのです。現在の社殿は、1966年(昭和41年)に建設されたもので、その後、社務所・神楽殿・石鳥居・玉垣などが新築され、今見るような立派な神社の景観が整えられていったのです。

表1 熊野神社の略史

年	記事
1333 (元弘3)	新田義貞による戦火で焼失
1406 (応永13)	社殿を再建
1486 (天明18)	道興准后が当地で歌を詠む
1590 (天正18)	兵火で社殿・奉額を焼失
1597 (慶長2)	社殿再建・再勧請
1670 (寛文10)	社殿を改築
1678 (延宝6)	代館より社地を給せられる
1762 (宝暦13)	本殿を造営
1873 (明治6)	村社に列せられる
1874 (明治7)	道興准后の歌碑を建立

1877 (明治10)	暴風により社殿倒壊
1883 (明治16)	社殿を復興し境内を整備
1907 (明治40)	神饌幣帛料共進社に指定
1920 (大正9)	渡辺貞利社掌となる
1923 (大正12)	関東大震災で社殿大破
1928 (昭和3)	社殿を大修理
1945 (昭和20)	米軍空襲で社殿大破
1946 (昭和21)	宗教法人令の神社規則を承認
1948 (昭和23)	社殿復旧完成
1949 (昭和24)	境内地無償譲与
1952 (昭和27)	宗教法人法の神社規則承認
1954 (昭和29)	宗教法人法の神社規則承認
1956 (昭和31)	社務所を新築
1964 (昭和39)	社殿改築を決定
1966 (昭和41)	仮遷座祭・地鎮祭・上棟祭
1966 (昭和41)	本殿遷座祭を斎行
1967 (昭和42)	竣工奉祝大祭を斎行
1973 (昭和48)	手水舎・神楽殿・鳥居を建設
1995 (平成7)	社殿・社務所・神楽殿改築
2016 (平成28)	本殿玉垣を改修

資料) 熊野神社社務所(編), n. d. より。

4 祭事暦と赤米神事

次に、神社の祭りと行事について、みてみることに致しましょう。(つづく)

[表紙解説] ニッポン寿司列島③—雛祭りのちらし寿司(千葉県)—

三月節供の雛祭りの日に、ちらし寿司を作って雛段に供えるのは、関東地方のごく一般的な民間習俗である。ここに掲げたのは千葉県佐倉市の例であるが、実に豪華なちらし寿司が大皿に盛られている。酢飯の上には、玉子焼き・海老・干瓢・椎茸・胡瓜・田麩・海苔などの具が、どっさりと載せられている。女の子の成長を祝うハレの日の御馳走であった。